

続！気候変動の 科学 × 哲学



って何？

『気候正義』



世界で「気候危機」の認識が高まり、グレタさんら若者が声を上げ始めています。

その中のキーワードである「気候正義」について、政治哲学の観点から

宇佐美誠氏に改めて話を伺い、参加者と一緒に考えます。

昨年度に開催したサイエンスカフェの第2弾です。

前回の様子はこちらから >>

[気候変動の科学×哲学](#) 🔍

日時/ 2020.2.28 金

19:00～20:30 (18:30 受付開始)

会場/ 文部科学省情報ひろば1階ラウンジ
東京都千代田区霞が関3-2-2

アクセス/ 銀座線「虎ノ門駅」11番出口直結
千代田線「霞ヶ関駅」A13番出口徒歩5分

スピーカー 哲学 / 宇佐美誠 (京都大学)

ファシリテーター 科学 / 江守正多 (国立環境研究所)

主催/ 日本学術会議

共催/ 国立環境研究所 社会対話・協働推進オフィス



飲み物付き

サイエンスカフェとは

専門家と一般の人々が、科学をテーマに、飲み物を飲みながらざっくばらんに語り合うコミュニケーションの場です。



江守 正多

国立環境研究所
地球環境研究センター副センター長
日本学術会議 連携会員



宇佐美 誠

京都大学大学院
地球環境学堂教授
日本学術会議 連携会員

専門は地球温暖化の将来予測とリスク論。
東京大学大学院総合文化研究科博士課程
修了。博士(学術)。
温暖化リスク評価研究室長、気候変動リ
スク評価研究室長等を経て2018年より現職。
低炭素研究プログラム総括、社会対話・協
働推進オフィス代表(兼務)。気候変動に関
する政府間パネル(IPCC)第5次・第6次評
価報告書主執筆者。
著書「異常気象と人類の選択」、「地球温暖
化の予測は『正しい』か?—不確かな未来に
科学が挑む」等

専門は法哲学。
1989年名古屋大学法学部卒業、1991年同
大学大学院法学研究科博士課程(前期)修
了、1996年博士(法学)。
ハーヴァード大学客員研究員、中京大学教
授、東京工業大学教授等を経て、現職。元日
本公共政策学会副会長。
編著書に、『公共哲学20 世代間関係から考
える公共性』東京大学出版会、2006年(共
編著)、『法哲学』有斐閣、2014年(共著)、
『気候正義』勁草書房、2019年(編著)、『正
義論』法律文化社、2019年(共著)など。

みどころ

現世代が出したCO₂で次世代が、先進国が出したCO₂で途上国が、それぞれ被害を受ける。そんな、気候変動がもたらす社会の不公平を問うのが「**気候正義**」。
自然科学と**哲学**がクロスするこの問題を、それぞれの分野の専門家とともに考えます。

申し込み

事前申し込みでの受付となります。

応募フォーム：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0105.html>